

また、文化芸術は、区民・文化芸術団体・企業・学校・区など、多様な文化芸術の担い手の活動により育まれていくものですが、新宿のまちの文化芸術を育てていくための担い手としては、新宿のまちに集う者、新宿のまちの文化芸術を支援する者等の存在が欠かせません。そのため、本懇談会では、新宿区基本構想・総合計画に掲げる「区民」（新宿区に住む人々はもとより、新宿区で働き、学び、活動する多くの人々）の概念を踏まえつつ、観客等として新宿のまちに集う者、新宿のまちの文化芸術を支援する者等を含めて、「区民等」として捉えて、検討を行っています。

Ⅳ 文化芸術を振興する上での基本的な視点

文化芸術を振興していく上では、区民、文化芸術団体、学校、企業、新宿区等、文化芸術に携わる担い手がそれぞれ個性を十分に発揮して、自由に活発な文化芸術活動を展開できる枠組みを構築していくことが大切です。

そのため、「Ⅲ文化芸術振興の基本的な考え方」を踏まえて、次の4つの視点から、それぞれの主体が、今後の文化芸術の振興に取り組んでいくことが必要です。

◇持続性・継続性

持続的・継続的な取り組みとして、文化芸術を振興していける仕組みや枠組みを構築します。

◇自主性・独立性

文化芸術に係わるそれぞれの主体の自主性と独立性の下に、文化芸術が振興される枠組みを構築します。

◇時間軸・地域性

新宿の持つ歴史を未来に継承する視点や新宿の地域性を大切にしつつ、文化芸術が振興される枠組みを構築していきます。

◇連携・ネットワーク化

区民、文化芸術団体、学校、企業、財団、区等、文化芸術に関わる多様な主体の連携・ネットワーク化により、文化芸術が振興される枠組みを構築していきます。